

3. 植物調査結果

3. 植物調査

3.1 植物調査結果の概要

(1) 確認種

今回とりまとめを行った 30 水系 32 河川で確認された植物は、193 科 2,699 種でした。

確認種数が多かった河川は、中国地方の江の川で 1,116 種、次いで関東地方の多摩川で 1,107 種、九州地方の大淀川で 789 種でした。

(2) 特定種

今回とりまとめを行った 32 河川で確認された特定種は、レッドデータブック絶滅危惧 IA 類に指定されているアカバナ科のミズキンバイ、ゴマノハグサ科のキタミソウ、イネ科のホソバドジョウツナギ等、51 科 111 種でした。

特定種の確認種数が最も多かった河川は、北海道地方の十勝川で 34 種、次いで北海道地方の常呂川で 20 種、九州地方の遠賀川で 14 種でした。

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種、亜種、変種、品種を特定種としました。

- 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- 環境庁 編「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」掲載種 (2000: 維管束植物)

(3) 外来種

今回とりまとめを行った 32 河川で確認された外来種は、ウリ科のアレチウリ、キク科のオオキンケイギクやオオバタクサ等、77 科 479 種でした。このうちの約 5 分の 1 にあたる 98 種が、半数以上の河川で確認されました。

外来種の確認種数が最も多かった河川は、関東地方の多摩川で 221 種、次いで利根川(中川・綾瀬川)で 209 種、九州地方の遠賀川で 187 種、中部地方の庄内川で 186 種でした。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I.6 (26~27 ページ) および 28 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。